



2013年7月23日

株式会社 リクルートライフスタイル

# 「リサーチ」 宿泊旅行調査 2013



- 2012年度(2012年4月～2013年3月)の延べ宿泊旅行者泊数(人泊)は、前年度より2.3%減の約2億3,445万人泊。飛行機利用旅行が延べ90万人増。新幹線等の利用も延べ68万人増
- 調査開始以来、8年連続「一人旅」が増加

株式会社リクルートライフスタイル(本社：東京都千代田区 代表取締役社長 北村吉弘)に設置されたじゃらんリサーチセンター(センター長：沢登次彦)は、この度、全国1万5,487人の宿泊旅行者を対象に、「じゃらん宿泊旅行調査2013」を実施しました。この調査は、観光などを目的とした宿泊を伴う旅行実態を把握するために行っている調査で、出張・帰省・修学旅行などを除いたマーケットの動向を調べています。2012年度(2012年4月～2013年3月)における国内での宿泊旅行の実態について、その行き先や回数、旅行費用などの調査をし、今年で9回目の実施となります。主な結果は以下の通りです。

## <TOPICS>

※1 宿泊旅行・・・国内での宿泊を伴う旅行で、出張・帰省・修学旅行などを除く

### ●【延べ宿泊旅行者数】

2012年度(2012年4月～2013年3月)の宿泊旅行※1実施率は55.8%と、前年度より1.8ポイント減少。1年間の旅行実施回数は前年度より0.07回増と微増したが、全国の延べ宿泊旅行者泊数(人泊)は前年度比2.3%減の約2億3,445万人泊と、震災前の水準に届かず。

..... P3

### ●【宿泊旅行にかけられた費用】

宿泊旅行にかけられた費用総額は約6.9兆円で、前年度(震災直後の1年)から1.1%増の回復。大人1人あたりの1回の宿泊旅行にかけた費用は47,600円で、前年度より1,000円上昇(宿泊・交通で800円増)。月別前年度比較では、繁忙期の7月、8月で各2800円増、12月で3300円増。

..... P4-5

### ●【都道府県別の延べ宿泊旅行者数と増減】

震災直後の“西高東低”から東へシフト。東京都は206万人増と5年ぶりに増加。北海道は81万人増と調査開始以来初めての増加となった。

..... P6

### ●【1次交通手段別 x 延べ宿泊旅行者数】

「LCC元年」の2012年度は、飛行機利用旅行が延べ90万人増。東北新幹線の健闘で関東-東北間を中心に、新幹線・特急列車利用が延べ68万人増。一方、自家用車利用は延べ473万人減。

..... P7

### ●【同行形態】

「一人旅」は調査開始以来、8年連続増加し14.5%。35～49歳男性の「一人旅」が増加。

..... P8

### ■ <<テーマ別・都道府県魅力度ランキング>>

▶ 地元ならではのおいしい食べ物が多かった	1位	沖縄県	2位	北海道	3位	石川県
▶ 魅力のある特産品や土産物が多かった	1位	沖縄県	2位	京都府	3位	北海道
▶ 魅力的な宿泊施設が多かった	1位	大分県	2位	沖縄県	3位	神奈川県
▶ 地元の人のホスピタリティを感じた	1位	沖縄県	2位	秋田県	3位	岩手県
▶ 現地で良い観光情報を入手できた	1位	沖縄県	2位	京都府	3位	奈良県
▶ 子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった	1位	千葉県	2位	沖縄県	3位	和歌山県
▶ 大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった	1位	沖縄県	2位	千葉県	3位	京都府

..... P9-10

【本件に関するお問い合わせ先】

<https://www.recruit-lifestyle.co.jp/support/press/>

## 調査概要

◎調査名           じゅらん宿泊旅行調査2013

◎調査方法       インターネットによる調査

### ■1次調査

- ①調査目的       全国の宿泊旅行実施者を抽出することに加え、性・年代別の宿泊旅行実施率と、社会的な出来事の影響を知るために実施した。
- ②調査時期       2013年4月11日（木）～17日（水）
- ③調査対象       全国20～79歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）
- ④配信数         336,965件
- ⑤調査内容       昨年度1年間（2012年4月～2013年3月）の国内宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）の有無について
- ⑥回収数         80,000件（回収率23.7%）
- ⑦1次調査集計対象者数 20,000件
- ※2次調査において都道府県別、性・年代別の割付にあった回収が得られるように配信した。
    - ・配信数と割付について
      - 2次調査のセル別目標回収数は、『平成22年 国勢調査』の都道府県別・性・年代別の人口に概ね従うように47都道府県を5ランクに分けサンプル数を割り付けて配信した。ランクごとに6：5：3：2：1の割合で、合計約15,400件の回収を目標とした。
      - ・2次調査の配信数は、ウェイトバック値のバランスをなるべく揃えるために、県別に均等割付ではなく、ランクを設けて割付を行った上で、1次調査および追加調査の旅行実施者41,594件を都道府県ごとに分配し、サンプル数を割り付けて配信した。
    - ※回収された80,000件のうち都道府県別・性・年代別に割付を行い20,000件を抽出。性・年代別宿泊旅行実施率を算出。
- ⑧2次調査対象件数 40,792件

### ■2次調査

- ①調査目的       全国の宿泊旅行実施者に対して、宿泊旅行の内容を知るために実施した。
- ②調査時期       2013年4月18日（木）～30日（火）
- ③調査対象       41,594件（うち、同居家族モニター802件）
- ・1次調査において、「昨年度1年間に国内宿泊旅行をした」と回答した人：40,792件
  - ・追加調査において、「昨年度1年間に国内宿泊旅行をした」と回答した人のうち、調査協力が得られた60歳以上の家族本人：802件
  - ※調査回収難度が高い60歳以上の回収数を増やすために追加調査を実施した。追加調査は株式会社マクロミルの登録モニターのうち60歳以上の家族と同居しているモニターを対象として該当家族が同席する上で回答という条件で実施。（回収数20,000件<配信数62,735件 回収率31.9%>、2次調査対象者数802件）
- ④配信数         23,774件（うち、同居家族モニター125件）
- ※配信数は対象者の中から都道府県別、性・年代別の割付にあわせてランダムに抽出した。
- ⑤調査内容       昨年度1年間に実施したすべての宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）の行き先と回数について、また1人最大3件までの個別宿泊旅行について、具体的な内容を調査した。
- ⑥回収数         15,514件（回収率65.3%）
- ⑦有効回答数     15,487件（うち、同居家族モニター74件、旅行件数ベース30,478件）

#### ※集計・分析手法について

はじめに平成24年10月1日現在推計人口（総務省統計局発表）および1次調査結果を用い、全国の宿泊旅行者の母集団を推計した。次に、2次調査の集計・分析にあたり、推計された宿泊旅行者の母集団における都道府県別、性・年代別構成比に基づいてウェイトバックを行い、構成比のずれを補正している。

また今回は60歳以上の登録モニター数が少ない県について、60歳以上の家族と同居している登録モニターに代理回答を実施、2次調査の調査対象として追加した。

#### ◇じゃらんリサーチセンターの概要

「じゃらんリサーチセンター」は、国をはじめ地方自治体、観光関連事業者にとって、すぐに使える情報を広く提供し、かつ、日本の観光振興にさまざまな切り口から提案を行うことで、新しい観光ムーブメントを創出し、観光産業全体のさらなる活性化に寄与することを狙いとし、2005年8月より、株式会社リクルート（現・株式会社リクルートライフスタイル）内に設置されている組織です。

2012年度(2012年4月～2013年3月)の宿泊旅行※1実施率は55.8%と前年度より減少(1.8ポイント減)。1年間の旅行実施回数は前年度より0.07回増と微増したが、全国の延べ宿泊旅行者泊数(人泊)は前年度比2.3%減の約2億3,445万人泊と、震災前の水準に届かず。

2012年4月1日～2013年3月末の1年間に宿泊旅行を行った人の割合は55.8%で、前年度(震災直後の1年間)57.6%、前々年度56.7%よりも低い結果となった。属性別では、20～34歳男性層が、4.4ポイント低下。また、震災直後の前年度は4月～10月頃までの旅行控えが影響し、減少していた旅行実施者の年間平均旅行回数が、微増した。しかし、宿泊旅行実施率減少が影響し、延べ宿泊旅行者数※2(は、前年度の1.2%減となった。また、1回あたりの宿泊数は微減し1.61泊。結果、延べ宿泊旅行者泊数※3は前年度比で542万人泊減(前年度比2.3%減)の2億3,445万人泊となった。

- ※1 宿泊旅行・・・国内での宿泊を伴う旅行で、出張・帰省・修学旅行などを除く
- ※2 延べ宿泊旅行者数・・・推計人口×宿泊旅行実施率×宿泊旅行実施者の年間平均旅行回数
- ※3 延べ宿泊旅行者泊数(人泊)・・・延べ宿泊旅行者数×宿泊旅行実施者の1回の旅行あたり平均宿泊数

◇延べ宿泊旅行者数の推計方法

※推計値の算出は四捨五入していない実データで行っています。

	H24年10月1日 現在推計人口	調査結果			推計値		
	人口 (万人) <A>	宿泊旅行 実施率 (%) <B>	宿泊旅行 実施者の 年間平均 旅行回数 (回) <C>	宿泊旅行 実施者の 1回の旅行あたり 平均宿泊数 (泊) <D>	実 宿泊旅行者数 (万人) A*B	延べ 宿泊旅行者数 (万人回) A*B*C	延べ 宿泊旅行者 泊数 (万人泊) A*B*C*D
[2012年度]全国20～79歳男女	9,598	55.8	2.71	1.61	5,354	14,505	23,445
	前年との差→	▲ 1.8		前年との差→	▲ 207	▲ 181	▲ 542
				前年比→	▲ 3.7%	▲ 1.2%	▲ 2.3%
[2011年度]全国20～79歳男女	9,646	57.6	2.64	1.63	5,561	14,686	23,987
[2010年度]全国20～79歳男女	9,672	56.7	2.73	1.64	5,489	15,020	24,686
[2009年度]全国20～79歳男女	9,653	60.3	2.79	1.65	5,819	16,239	26,778
[2008年度]全国20～79歳男女	9,688	63.1	2.84	1.68	6,110	17,355	29,235
[2007年度]全国20～79歳男女	9,707	63.8	2.83	1.69	6,196	17,514	29,604
[2006年度]全国20～79歳男女	9,686	64.7	2.77	1.69	6,269	17,366	29,325
[2005年度]全国20～79歳男女	9,722	66.1	2.78	1.72	6,424	17,875	30,856
[2004年度]全国20～79歳男女	9,707	65.4	2.73	1.68	6,350	17,343	29,024

※人口について、次の統計値を用いて調査を行っています。  
 2012年度：H24年10月1日現在推計人口  
 2009年度：H21年10月1日現在推計人口  
 2006年度：H17年10月1日現在国勢調査人口  
 2011年度：H23年10月1日現在推計人口  
 2008年度：H20年10月1日現在推計人口  
 2005年度：H16年10月1日現在推計人口  
 2010年度：H22年国勢調査<速報>  
 2007年度：H19年10月1日現在推計人口  
 2004年度：H15年10月1日現在推計人口

◇性・年代別 宿泊旅行実施率の推移

※1次調査回答者ベース

	単位(%)										単位(ポイント)	
	12年度	11年度	10年度	09年度	08年度	07年度	06年度	05年度	04年度	12年度 -11年度	12年度 -04年度	
全体	55.8	57.6	56.7	60.3	63.1	63.8	64.7	66.1	65.4	▲ 1.8	▲ 9.6	
男性	53.3	55.4	54.2	58.4	61.6	62.7	62.6	64.4	62.9	▲ 2.1	▲ 9.6	
女性	58.2	59.9	59.2	62.2	64.5	64.9	66.8	67.7	67.8	▲ 1.7	▲ 9.6	
20～34歳	57.4	60.5	57.1	60.9	63.6	64.0	64.0	64.0	65.2	▲ 3.1	▲ 7.8	
35～49歳	52.7	54.5	53.6	57.4	59.2	59.5	60.9	63.5	62.2	▲ 1.8	▲ 9.5	
50～79歳	56.8	58.1	58.3	61.6	64.9	66.1	67.1	68.6	67.2	▲ 1.3	▲ 10.4	
20～34歳 / 男性	52.8	57.2	53.2	57.0	60.6	61.8	61.0	61.4	62.5	▲ 4.4	▲ 9.7	
20～34歳 / 女性	62.3	64.0	61.3	65.0	66.8	66.3	67.1	66.7	68.0	▲ 1.7	▲ 5.7	
35～49歳 / 男性	51.8	53.0	53.6	56.9	59.6	60.1	60.4	62.2	61.9	▲ 1.2	▲ 10.1	
35～49歳 / 女性	53.7	55.9	53.6	57.8	58.7	58.9	61.5	64.8	62.6	▲ 2.2	▲ 8.9	
50～79歳 / 男性	54.4	55.9	55.1	59.9	63.2	64.7	64.8	67.4	63.8	▲ 1.5	▲ 9.4	
50～79歳 / 女性	59.0	60.2	61.2	63.1	66.5	67.3	69.2	69.7	70.3	▲ 1.2	▲ 11.3	

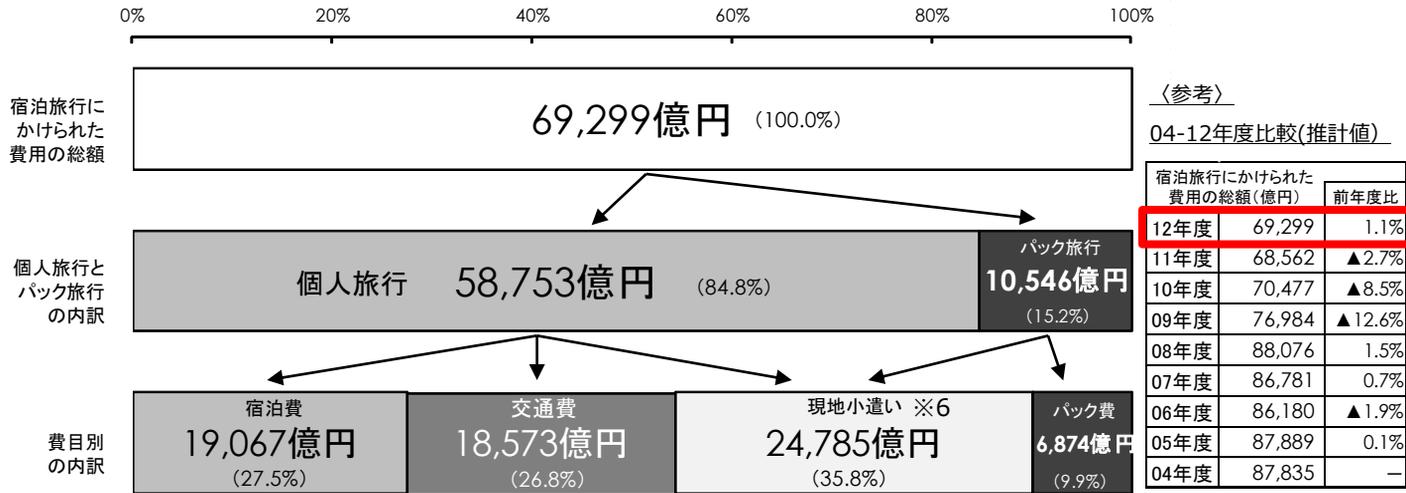
# TOPIC 国内宿泊旅行の費用総額と市場回復

全国の宿泊旅行にかけられた費用総額は約6.9兆円で、前年度(震災直後の1年)から1.1%増の回復がみられた。1回(大人1人あたり)の宿泊旅行にかかった費用は47,600円で、前年度より1,000円上昇(宿泊・交通で800円増)。

1回の宿泊旅行にかかった費用※4が、前年度46,600円→47,600円と前年度比で1000円上昇。個人旅行※5における内訳でみると、交通費は前年度14,000円→14,300円、宿泊費は14,600円→14,700円へと増加した。旅行手配は、個人手配旅行比率が88.9%で、震災前の10年度より微増した。

- ※4 1回の宿泊旅行にかかった費用(大人1人あたり)・・・1回の宿泊旅行にかかった費用について、個人旅行の場合、1人あたりの宿泊費・交通費・現地小遣いの合計。パック旅行の場合、1人あたりのパック費・現地小遣いの合計。20歳未満の子供を連れた旅行の場合は、全員でかかった費用を同行した大人の人数で割っている。
- ※5 個人旅行・・・個人で宿を手配した旅行で、旅行会社を通して宿を手配した場合も含む。

## ◇ 宿泊旅行にかけられた費用総額 (推計値)



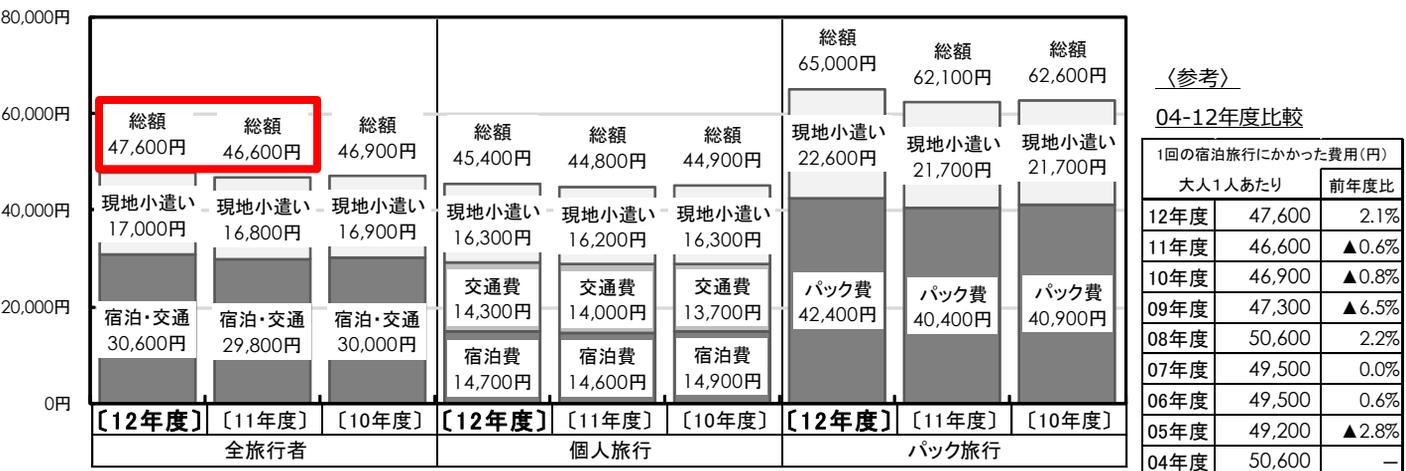
(参考) 04-12年度比較(推計値)

宿泊旅行にかけられた費用の総額(億円)	前年度比
12年度	69,299 ▲1.1%
11年度	68,562 ▲2.7%
10年度	70,477 ▲8.5%
09年度	76,984 ▲12.6%
08年度	88,076 1.5%
07年度	86,781 0.7%
06年度	86,180 ▲1.9%
05年度	87,889 0.1%
04年度	87,835 -

※6 現地小遣い・・・旅行先での飲食・買い物、遊興費、目的エリア内での移動費用を含む。

## ◇ 1回の宿泊旅行にかかった費用 (大人1人あたり)

※金額については、百の位までの四捨五入で示しているため、合計が合わない場合があります。



(参考) 04-12年度比較

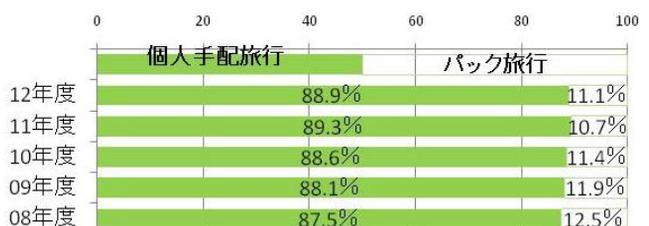
1回の宿泊旅行にかかった費用(円) 大人1人あたり	前年度比
12年度	47,600 2.1%
11年度	46,600 ▲0.6%
10年度	46,900 ▲0.8%
09年度	47,300 ▲6.5%
08年度	50,600 2.2%
07年度	49,500 0.0%
06年度	49,500 0.6%
05年度	49,200 ▲2.8%
04年度	50,600 -

### < 全国の宿泊旅行費用総額の推計方法 >

- ①集計データより全国の性・年代別の個人旅行とパック旅行の延べ宿泊旅行者数を推計
- ②全国の性・年代・手配方法(個人orパック)別の旅行費用の平均値(単価)を算出
- ③全国の性・年代・手配方法別の延べ宿泊旅行者数に単価を乗じ、性・年代・手配方法別の費用総額を算出
- ④性・年代別の費用総額の結果を積み上げて全国の宿泊旅行費用総額を算出

### < 参考 > 宿泊旅行の手配方法

※ベース: 宿泊旅行件数



# 【参考】 月別 延べ宿泊旅行者数と費用の変化

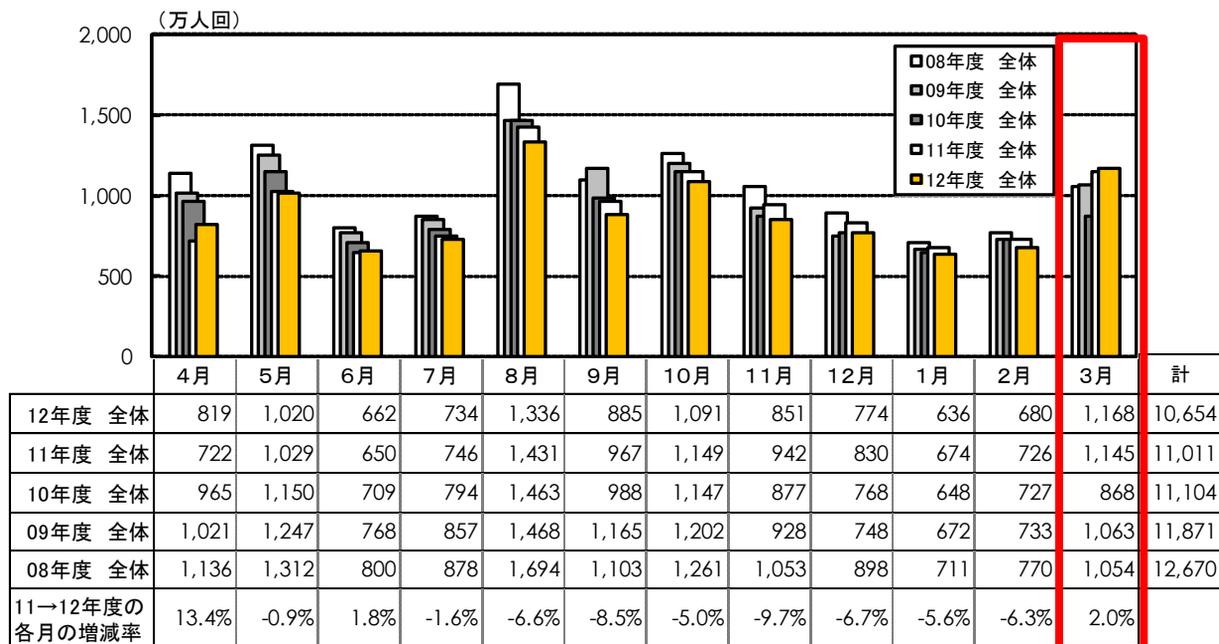
月別「延べ宿泊旅行者数※」では、3月単月で過去5年で最高旅行件数。  
1回あたりの宿泊旅行にかかった費用は、7月、8月、12月で大きく増加。

「延べ宿泊旅行者数（推計値）」の前年度比較では、震災直後の上半期を除き、2013年3月単月の「延べ宿泊旅行者数」は過去5年で最高の件数だった。

月別「1回あたりの旅行費用（大人1人あたり）」では、前年度比較で7月、8月で各2800円増、12月3300円増と、繁忙期の旅行費用が大きく増加していた。

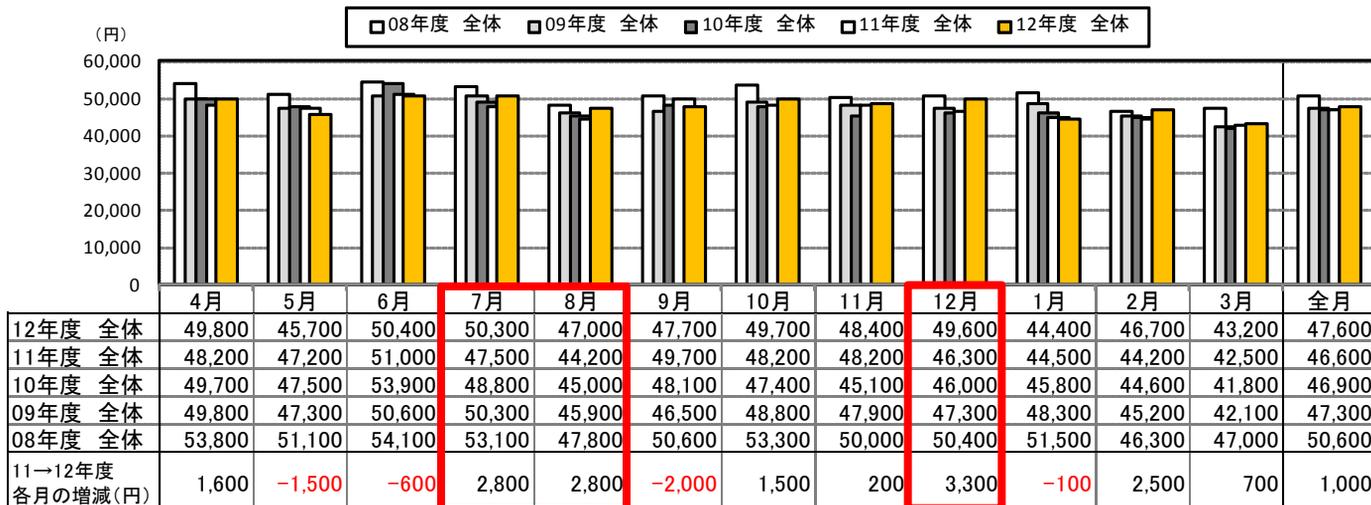
※延べ宿泊旅行者数・・・推計人口×宿泊旅行実施率×宿泊旅行実施者の年間平均旅行回数（単位：万人回）

## ◇延べ宿泊旅行者数 月別(推計値) ※1人あたり最大3回までの旅行件数



※旅行の時期については、1人最大3回までの旅行についてたずねているため、各年度の月別件数の合計はP3・P6の延べ宿泊旅行者数の推計値と異なる。P3・P6の延べ宿泊旅行者数は、1人あたり1年間に行ったすべての旅行回数をたずねた結果から推計している。

## ◇宿泊旅行費用（大人1人1回あたり） 月別（過去5年間）



「延べ宿泊旅行※者数の多い旅行先」は、震災直後の“西高東低”から東へシフト。相次ぐ新スポット開業の影響が、東京都206万人増。LCCの影響が、北海道81万人増で、調査開始以来初めて増加がみられた。

「延べ宿泊旅行者数の多い旅行先」上位10都道府県の顔ぶれは、前年度と変わらないが、東日本勢の旅行者数（推計値）は、震災直後の「西高東低」状況から平準化した様子で、全体的に増加がみられた。

延べ宿泊旅行者数の増加数1位の東京都では、2012年5月“東京スカイツリー開業”、10月に“東京駅丸の内駅舎保存・復原工事完成”、その他、商業施設オープン等の影響が、大きな伸びをみせた。国内LCC就航の影響が、北海道、大阪府、福岡県等でも延べ宿泊旅行者数の伸びがみられた。

その他、増加数上位の都道府県には、東北を始めとする東日本各県、遷宮前の三重県などがランクイン。

※出張・帰省・修学旅行などによる宿泊旅行は含まない。

※1回の旅行において複数の都道府県に宿泊した場合、それぞれの都道府県に旅行回数1回とカウントしている。

※1人あたり1年間に行ったすべての旅行回数を尋ねた結果から推計している。

◇都道府県別の延べ宿泊旅行者数（推計値）

※上位10都道府県

全体						増減傾向				
2012年度 推計値		順位変動	2011年度 推計値	2010年度 推計値	2009年度推計値	2008年度推計値	12←11	11←10	10←09	09←08
全国	14,505万人		14,686万人	15,020万人	16,239万人	17,355万人	-	-	-	-
1位 東京都	1,659万人	←	(1位 1,453万人)	(1位 1,499万人)	(1,628万人)	(1,734万人)	+	-	-	-
2位 北海道	1,025万人	←	(2位 944万人)	(2位 978万人)	(1,136万人)	(1,201万人)	+	-	-	-
3位 長野県	785万人	↑	(4位 786万人)	(4位 816万人)	(871万人)	(914万人)	-	-	-	-
4位 神奈川県	766万人	↑	(5位 781万人)	(3位 837万人)	(807万人)	(860万人)	-	-	+	-
5位 静岡県	715万人	↓	(3位 787万人)	(5位 784万人)	(828万人)	(961万人)	-	+	-	-
6位 大阪府	706万人	↑	(7位 679万人)	(7位 678万人)	(698万人)	(744万人)	+	+	-	-
7位 京都府	656万人	↓	(6位 690万人)	(6位 687万人)	(675万人)	(740万人)	-	+	+	-
8位 千葉県	573万人	←	(8位 572万人)	(8位 593万人)	(634万人)	(702万人)	+	-	-	-
9位 福岡県	474万人	↑	(10位 457万人)	(11位 446万人)	(474万人)	(523万人)	+	+	-	-
9位 兵庫県	474万人	←	(9位 525万人)	(9位 476万人)	(558万人)	(546万人)	-	+	-	+

◇都道府県別の延べ宿泊旅行者数・

増加率（2012年度-2011年度推計値）

※上位10都道府県

全体			
2012年度←11年度	増加数	増加率	
1位	東京都	206万人	14.2%
2位	北海道	81万人	8.6%
3位	三重県	36万人	11.4%
4位	宮城県	34万人	10.2%
5位	大阪府	27万人	3.9%
6位	新潟県	26万人	9.0%
7位	福岡県	17万人	3.7%
7位	秋田県	17万人	14.5%
9位	栃木県	8万人	2.2%
10位	群馬県	4万人	1.0%

【参考】ブロック別 延べ宿泊旅行者数増減

（2012年度-2011年度推計値）

		旅行先ブロック									
		北海道ブロック	東北ブロック	関東ブロック	甲信越・北陸ブロック	東海ブロック	関西ブロック	中四国ブロック	九州ブロック	沖縄ブロック	
全体	12年度	1,025	1,307	3,953	1,934	1,686	2,331	1,325	1,722	431	
	11年度	944	1,292	3,773	1,967	1,810	2,449	1,456	1,780	436	
	10年度	978	1,461	3,920	2,067	1,759	2,427	1,496	1,671	461	
	12-11年度増減	81	15	179	-34	-124	-118	-131	-58	-5	
	居住地ブロック	北海道ブロック	24	3	-14	-5	1	13	-2	3	2
		東北ブロック	-3	-65	49	-10	1	-2	-2	-3	-3
		関東ブロック	15	59	7	-26	-136	26	-30	-31	18
		甲信越・北陸ブロック	7	7	8	29	-12	-20	-5	3	-1
		東海ブロック	9	20	19	-29	10	-24	-21	23	7
		関西ブロック	20	-10	19	19	13	-79	-59	7	-8
中四国ブロック		3	7	34	-5	-2	-38	-15	-33	-6	
九州ブロック		6	-5	39	-7	6	12	0	-27	-4	
沖縄ブロック		0	-2	17	-1	-4	-6	2	2	-10	

※全体増減/ -100万人以上：網掛け白文字、+100万人以上：網掛け黒文字 ※ブロック別増減/ -30万人以上：網掛け白文字、+30万人以上：網掛け黒文字

「LCC元年」の2012年度は、1次交通手段別にみると、飛行機利用旅行が延べ90万人増。新幹線・特急列車利用は、東北新幹線の健闘で関東－東北間を中心に延べ68万人増。一方、自家用車利用は延べ473万人減。

2012年度話題になった、国内線LCCの相次ぐ就航や東北新幹線の観光における本格稼働など、国内観光における1次交通手段の影響が反映された結果となった。

飛行機利用者を抽出してみると、九州→関東・関西、関東→関西、関西→北海道・九州への宿泊旅行者が増加していることが分かった。また、東北新幹線の影響か、新幹線・特急列車利用者の中では、東北、関東間の宿泊旅行が活発化していることがうかがえる。その他、自家用車利用の旅行は全国的に減少しており、特に域内観光の自動車利用者の減少が見てとれる。関東から東北への自家用車利用旅行者は19万人増となっていた。

※1次交通手段…居住地から、旅行先までに利用した主な交通手段

※1回の旅行において複数の都道府県に宿泊した場合、それぞれの都道府県に旅行回数1回とカウントしている。

◇旅行先ブロック別にみた1次交通手段の増減数

※1人あたり最大3回までの旅行件数

単位(万人回)		1次交通手段(単一回答)									
		飛行機	新幹線・特急列車	新幹線・特急列車以外のJR・私鉄・地下鉄等	船・フェリー	高速バス	貸切バス・観光バス	路線バス	自家用車	レンタカー	その他
全体	12年度	1,826	2,104	825	123	470	421	37	4,566	205	79
	11年度	1,736	2,036	824	105	467	462	44	5,039	223	75
12年度-11年度増減		90	68	1	18	3	-41	-7	-473	-18	4
旅行先ブロック	北海道ブロック	17	-2	-8	-2	11	-8	-2	-20	1	1
	東北ブロック	4	50	-1	3	7	15	0	-29	-5	-4
	関東ブロック	23	65	27	6	1	7	-3	-79	-1	10
	甲信越・北陸ブロック	4	3	3	2	10	-27	1	-88	-7	0
	東海ブロック	7	-27	5	2	-4	-12	0	-47	0	0
	関西ブロック	30	-20	-23	-2	-11	-6	-2	-80	-2	-2
	中四国ブロック	10	13	2	-1	-14	-11	-3	-63	0	0
	九州ブロック	18	-13	-6	7	3	0	2	-61	-4	-1
	沖縄ブロック	-23	0	2	4	1	1	0	-5	1	-1

※全体増減 / 100万人以上プラス: 網掛け黒文字、100万人以上マイナス: 網掛け白文字

※ブロック別増減 / 20万人以上プラス: 網掛け黒文字、30万人以上マイナス: 網掛け白文字

※1次交通手段については、1人最大3回までの旅行についてたずねているため、各年度や各ブロックの件数の合計はP3・P6の延べ宿泊旅行者数の推計値と異なる。P3・P6の延べ宿泊旅行者数は、1人あたり1年間に行ったすべての旅行回数をたずねた結果から推計している。

◇主な1次交通手段別にみた旅行先ブロック×居住地ブロックの増減数(12年度-11年度)

旅行先ブロック	飛行機による旅行										新幹線・特急列車による旅行										自家用車による旅行									
	総計	北海道	東北	関東	甲信越・北陸	東海	関西	中四国	九州	沖縄	総計	北海道	東北	関東	甲信越・北陸	東海	関西	中四国	九州	沖縄	総計	北海道	東北	関東	甲信越・北陸	東海	関西	中四国	九州	沖縄
北海道	17	-3	2	4	0	-3	11	0	4	1	-2	-3	-3	3	0	2	0	1	0	-	-20	-19	-1	0	0	-1	0	1	-1	-
東北	4	0	0	0	0	5	-5	5	0	-1	50	0	10	30	3	10	-2	0	-1	0	-29	-2	-42	19	2	1	-3	-1	-1	0
関東	23	-5	2	-1	3	-1	-2	16	10	1	65	1	32	5	-2	13	4	9	3	0	-79	-1	-14	-43	-5	-10	-4	-3	1	-1
甲信越・北陸	4	-1	0	4	0	1	-1	1	-1	1	3	0	3	4	2	-7	3	-2	-1	-1	-88	0	-10	-58	6	-24	0	-4	-1	1
東海	7	3	1	0	0	0	0	2	2	-2	-27	1	3	-35	-1	-1	8	-3	0	1	-47	0	-2	-30	-9	-9	-1	1	3	-1
関西	30	3	2	18	0	1	-2	-2	11	-1	-20	0	3	-3	-7	-5	-6	-4	3	-1	-80	-2	0	1	-15	-17	-35	-13	0	-1
中四国	10	1	1	5	-3	1	2	1	0	1	13	0	4	-3	3	-4	9	2	2	1	-63	-1	-2	1	-2	-9	-28	-18	-3	-
九州	18	3	-2	1	-2	10	13	0	-4	-1	-13	0	-1	-9	0	-3	0	-6	5	1	-61	-1	0	-5	1	1	1	-19	-41	0
沖縄	-23	2	0	-2	-3	2	-4	-8	-5	-6	0	-	-1	1	-	0	0	0	-	-	-5	-	-	-1	-	1	0	1	0	-5

※居住地ブロック×旅行先ブロックの増減 / -10万件以上: 網掛け白文字、+10万件以上: 網掛け黒文字

「一人旅」は調査開始以来、8年連続増加し14.5%。35～49歳男性で、ついに「一人旅」が2割を超え、20～34歳男性の23.2%に迫る。

最も割合が高いのは「夫婦二人での旅行」で24.1%。「職場やサークルなど団体旅行」が、5年連続で微減し4.4%、「友人との旅行」も2年連続で減少し13.8%となった。

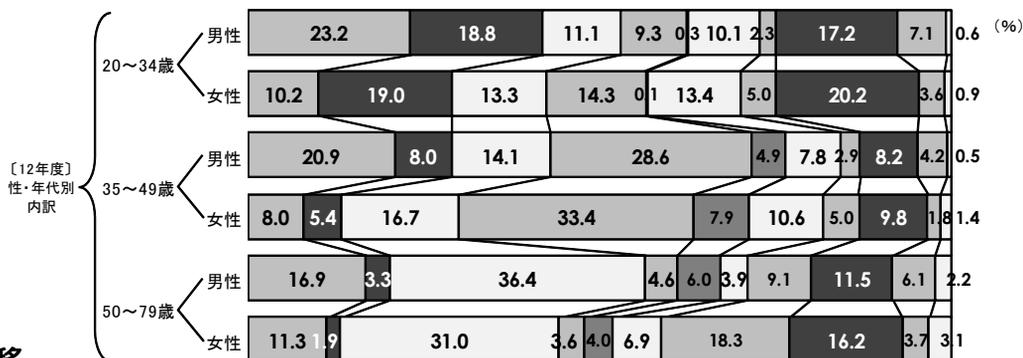
一方、「一人旅」は8年連続増加。同行者を性・年代別にみていくと、「一人旅」は男性が女性よりも高く、35～49歳男性は、調査開始時点から8.6ポイントも上昇し、20.9%となった。

## ◇宿泊旅行の同行形態（単一回答）

<ベース：1人あたり最大3回までの旅行件数>

※出張・帰省・修学旅行などによる宿泊旅行は含まない。

	一人旅	恋人との旅行	夫婦二人での旅行	小学生以下の子ども連れの家族旅行	中学生以上の子ども連れの家族旅行	親連れの家族旅行	その他の家族旅行	友人との旅行	職場やサークルなど団体旅行	その他	
〔12年度〕全体	14.5	7.2	24.1	12.7	4.3	7.9	9.2	13.8	4.4	1.8	(%)
〔11年度〕全体	14.1	7.4	24.5	12.6	4.0	8.0	8.8	14.3	4.5	1.9	
〔10年度〕全体	13.1	7.2	24.4	12.8	3.9	7.8	9.0	15.3	4.7	1.8	
〔09年度〕全体	12.9	7.4	24.3	12.4	3.7	7.7	9.3	15.2	5.2	2.0	
〔08年度〕全体	12.5	7.4	24.2	12.0	3.6	7.6	9.3	15.3	5.8	2.2	
〔07年度〕全体	12.0	7.3	23.8	12.4	3.7	7.2	9.3	15.9	6.1	2.2	
〔06年度〕全体	11.2	7.7	24.0	12.8	3.5	7.1	9.5	16.4	5.7	2.2	
〔05年度〕全体	10.8	7.7	23.6	13.5	3.7	7.0	9.5	15.6	6.4	2.1	
〔04年度〕全体	10.5	8.1	22.4	14.6	4.3	7.3	8.6	15.3	5.8	3.0	



## ◇「一人旅」構成比の推移

<ベース：1人あたり最大3回までの旅行件数>

性・年代別		12年度	11年度	10年度	09年度	08年度	07年度	06年度	05年度	04年度
20～34歳	男性	23.2	23.3	20.9	21.6	20.1	20.3	19.5	17.7	14.9
	女性	10.2	10.7	10.0	10.3	9.2	8.6	8.7	8.2	7.2
35～49歳	男性	20.9	18.5	18.4	16.7	15.7	15.2	13.9	13.7	12.3
	女性	8.0	8.2	9.4	7.4	7.7	7.3	6.7	6.7	5.8
50～79歳	男性	16.9	17.4	14.1	14.1	14.6	13.1	12.2	12.5	13.6
	女性	11.3	9.9	9.8	10.3	9.6	9.5	8.8	8.1	8.8

■ 地元ならではのおいしい食べ物が多かった

－ 1位：沖縄県、2位：北海道、3位：石川県

前年度圏外から、6位宮城県（前年度14位）、9位福岡県（前年度11位）、10位富山県（前年度19位）がランクイン。北陸3県がトップ10入り。

北海道、石川県など、刺身・魚介類一般・カニ・ウニ・エビ、他、地元でとれる新鮮な海の幸、ブランド肉等、素材名が多く挙げられるエリアと、沖縄県では、「ソーキそば」、香川県では「讃岐うどん」など、郷土料理やご当地グルメ、地元にはかない有名ローカル店舗の固有名詞が多く挙げられているエリアが目立つ。全国的に、ご当地ラーメン、そばが数多く挙げられているのが印象的であった。

(単位：%)

2012年度 順位	
全体平均	54.1
1位 沖縄県	71.9
2位 北海道	70.7
3位 石川県	69.2
4位 香川県	69.1
5位 福井県	68.4
6位 宮城県	68.3
7位 広島県	67.7
8位 鹿児島県	66.9
9位 福岡県	66.7
10位 富山県	65.7

2011年度 順位	
全体平均	54.2
1位 高知県	73.3
2位 沖縄県	71.1
3位 北海道	69.7
4位 香川県	69.3
5位 福井県	69.0
6位 広島県	67.3
7位 石川県	66.9
8位 鹿児島県	65.4
9位 京都府	64.6
10位 熊本県	64.0

■ 魅力のある特産品や土産物が多かった

－ 1位：沖縄県、2位：京都府、3位：北海道

今回トップ10入りしたのは、7位富山県（前年度17位）、石川県（前年度12位）、10位宮城県（前年度20位）。各県の上位には、ご当地の定番お菓子を始め、各種工芸品等が挙げられている。

1位沖縄県では「ちんすこう」、2位の京都府では「八つ橋」、3位北海道では「白い恋人」…と、各県上位のご当地定番お裾分けお菓子の強さがうかがえる結果。全国的に、加工食品を中心としたご当地グルメが数多く挙げられている。通販などでお取り寄せも可能な時代となったが、旅のお裾分けは、旅先で購入したご当地食が定番のようだ。

(単位：%)

2012年度 順位	
全体平均	43.4
1位 沖縄県	70.0
2位 京都府	58.5
3位 北海道	57.9
4位 鹿児島県	56.4
5位 青森県	54.2
6位 広島県	54.0
7位 富山県	53.8
7位 石川県	53.8
9位 高知県	53.0
10位 宮城県	52.0

2011年度 順位	
全体平均	42.7
1位 沖縄県	66.3
2位 京都府	62.2
3位 北海道	57.0
4位 高知県	56.9
5位 長崎県	54.5
6位 青森県	53.3
7位 広島県	51.3
8位 鹿児島県	51.2
9位 香川県	50.9
10位 和歌山県	50.5
10位 熊本県	50.5

■ 魅力的な宿泊施設が多かった

－ 1位：大分県、2位：沖縄県、3位：神奈川県

今回トップ10入りしたのは、4位群馬県（前年度14位）、10位鹿児島県（前年度17位）。有名温泉地を中心とした老舗宿泊施設や景色の楽しめるリゾートホテルなどが支持。

全国的に、老舗温泉地名自体や、「源泉かけ流しの宿」という総称を記載する人も多い。エリアを代表する老舗宿泊施設や、リゾートホテルの固有名詞が多く挙げられている。また、コメント数自体は少数ではあるが「キャンプ場」が記載されているエリアもあり、宿泊形態の多様化を感じさせる結果であった。

(単位：%)

2012年度 順位	
全体平均	38.9
1位 大分県	61.1
2位 沖縄県	56.9
3位 神奈川県	48.5
4位 群馬県	47.5
5位 石川県	46.5
6位 千葉県	45.7
7位 栃木県	45.4
8位 北海道	45.3
9位 岐阜県	45.2
10位 鹿児島県	45.0

2011年度 順位	
全体平均	38.1
1位 大分県	61.5
2位 沖縄県	56.7
3位 千葉県	47.8
4位 神奈川県	47.5
5位 熊本県	46.3
6位 岐阜県	46.0
7位 栃木県	44.3
8位 石川県	43.5
9位 北海道	43.4
10位 和歌山県	42.9

■ 地元の人ホスピタリティを感じた

－ 1位：沖縄県、2位：秋田県、3位：岩手県

今回トップ10入りしたのは、4位鹿児島県（前年度11位）、8位大分県（前年度13位）。例年東北と九州各県が目立つ。

1位の沖縄県で2.2ポイントアップしたが、全体平均は前年から横ばい。地元のホスピタリティを感じた具体的なスポットは、ホテル、観光スポット、買い物スポットに加え、タクシー、居酒屋、飲食店や市街地名が挙げられている。また、数自体は少ないものの「祭り」や体験型の観光スポットが挙げられており、地元の人と触れ合う体験の必要性を感じる結果となった。

(単位：%)

2012年度 順位	
全体平均	21.3
1位 沖縄県	47.4
2位 秋田県	32.8
3位 岩手県	32.3
4位 鹿児島県	30.4
5位 福島県	30.1
6位 熊本県	28.9
7位 山形県	28.7
8位 大分県	27.8
9位 宮城県	26.8
10位 愛媛県	26.7

2011年度 順位	
全体平均	21.3
1位 沖縄県	45.2
2位 山形県	32.9
3位 秋田県	31.0
4位 福島県	30.9
5位 岩手県	29.1
6位 長崎県	28.7
7位 宮城県	27.7
7位 愛媛県	27.7
9位 京都府	27.2
10位 熊本県	26.1

■ 子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

－ 1位：千葉県、2位：沖縄県、3位：和歌山県

今回トップ10入りしたのは、10位熊本県(前年度11位)。4位長崎県は7.1ポイントアップして、前年度8位から躍進。全国的にテーマパークに加え、牧場や水族館、動物園やキャンプ場など自然体験ができるスポットが支持されている。

全国的に、テーマパーク、水族館・動物園が数多く挙げられるのに加え、キャンプや果物狩りなどといった自然体験ができるスポットに関するコメントが目立つ。

(単位：%)

2012年度 順位	
全体平均	21.8
1位 千葉県	58.0
2位 沖縄県	38.5
3位 和歌山県	38.4
4位 長崎県	31.9
5位 三重県	30.2
6位 大阪府	28.1
7位 栃木県	26.1
8位 山梨県	24.8
9位 大分県	23.5
10位 熊本県	22.5

2011年度 順位	
全体平均	21.2
1位 千葉県	57.5
2位 沖縄県	40.1
3位 和歌山県	38.8
4位 大阪府	28.5
5位 三重県	28.0
6位 大分県	26.9
7位 栃木県	26.5
8位 長崎県	24.8
9位 山梨県	24.7
10位 新潟県	22.6

■ 若者が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

－ 1位：千葉県、2位：沖縄県、3位：大阪府

今回トップ10入りしたのは、9位三重県(前年度11位)、10位山梨県(前年度12位)。全国的にアウトレット、ショッピングができる街歩き、マリンスポーツなどの自然体験が目立つ。東京スカイツリー人気も伺える。

全国的にテーマパークに加え、ショッピングエリア(アウトレット、街の名前など)が多く挙げられていた。4位東京都では、開業後「東京スカイツリー」も多数挙げられ、東京観光を牽引した様子がうかがえた。10位山梨県では、世界遺産登録前ではあるが「富士山」が挙げられていた。次年度の伸びに期待できそう。

(単位：%)

2012年度 順位	
全体平均	24.7
1位 千葉県	54.8
2位 沖縄県	48.6
3位 大阪府	40.9
4位 東京都	34.5
5位 長崎県	32.3
6位 福岡県	29.2
7位 和歌山県	27.8
8位 神奈川県	26.8
9位 三重県	25.6
10位 山梨県	25.5

2011年度 順位	
全体平均	24.2
1位 千葉県	53.9
2位 沖縄県	48.8
3位 大阪府	41.2
4位 東京都	36.5
5位 福岡県	31.5
6位 和歌山県	30.3
7位 神奈川県	27.0
8位 北海道	25.4
8位 長崎県	25.4
10位 兵庫県	24.9

■ 大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

－ 1位：沖縄県、2位：千葉県、3位：京都府

今回トップ10入りしたのは、6位広島県(前年度15位)、8位神奈川県(前年度12位)。テーマパークに加え、寺社仏閣や地域を代表する街並み、ショッピングエリアが多く挙げられた。

全国的に、エリアを代表する繁華街の通りの名称なども多く挙げられている。また、名所・旧跡、寺社仏閣に加えて、美術館、歴史博物館、街歩きしやすいエリアを挙げる回答が目立つ。まだ数は少ないが、「工芸体験」「工場見学」など地域体感型のコンテンツも挙げられている。

(単位：%)

2012年度 順位	
全体平均	39.2
1位 沖縄県	56.6
2位 千葉県	56.5
3位 京都府	51.8
4位 奈良県	48.1
5位 長崎県	45.8
6位 東京都	43.7
6位 広島県	43.7
8位 神奈川県	42.4
9位 大分県	41.9
10位 三重県	41.4

2011年度 順位	
全体平均	38.6
1位 千葉県	55.6
1位 沖縄県	55.6
3位 京都府	54.8
4位 大分県	43.4
5位 東京都	43.3
5位 長崎県	43.3
7位 和歌山県	43.0
8位 大阪府	42.8
9位 奈良県	42.0
10位 三重県	41.8

■ 現地で良い観光情報を入手できた

－ 1位：沖縄県、2位：京都府、3位：奈良県

観光情報だけでなく、地元の美味しいお店やお勧めスポット情報を盛り込んだパンフレットに加え、直接、宿やタクシーなどで、地元のスタッフから入手した情報が満足度を上げている様子。

(単位：%)

2012年度 順位	
全体平均	23.0
1位 沖縄県	42.6
2位 京都府	35.4
3位 奈良県	35.1
4位 鹿児島県	31.9
5位 愛媛県	31.1
6位 北海道	29.9
7位 青森県	28.7
8位 岩手県	28.4
9位 秋田県	28.1
10位 長崎県	27.6

＜ランキングの算出方法＞

※集計は各都道府県への宿泊旅行件数がベース

- ①訪問した旅行先の評価を「そう思う」「ややそう思う」「ふつう」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5段階から選択。
- ②「そう思う」「ややそう思う」計の割合が多い順にランキング。

＜コメントの回答方法＞

「そう思う」「ややそう思う」と回答した設問に任意でコメント記入。

※対象設問：「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」「魅力のある特産品や土産物が多かった」「魅力的な宿泊施設が多かった」「子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「若者が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「地元の人のホスピタリティを感じた」「現地で良い観光情報を入手できた」